



# 寄居ロータリークラブ

## YORII ROTARY CLUB

# 会報



R.I.会長  
ジェニファーE.ジョンズ  
第2570地区ガバナー  
村田 貴紀  
第4グループガバナー補佐  
金井 福則



令和4年8月24日(水)  
会場 ホテルシティプラザ寄居

## 第2667回例会

司会 橋本 則彦 (SAA)  
点鐘 津久井 大雄会長 (12:30)  
ソング 我等の生業

お客様

元米山奨学生 金在根さん

### 1. 会長の時間

津久井 大雄さん

皆さん、こんにちは。今日のソングは「我等の生業」ということで、いつもの「奉仕の理想」とは違って新鮮な感じがします。いろいろな大会に行きますと、いろいろな曲が流れますので、やはり知らないというわけにはいかないのです、前回もお話ししましたが、今年度はいろいろなロータリソングを流していければいいと思いますので、よろしくお願いいたします。



8月6日に第4グループの会長・幹事会が開催されました。まだお盆前でしたが、各クラブの現状報告や入会・大会の報告、今後の入会者などを報告し合いました。また、コロナ禍の中でクラブの運営についても話し合いました。実際、8月現在活動しているのは寄居、本庄、深谷クラブのみで、他のクラブは休会もしくはリモートによる開催をしているのが現状でございます。増員等の件ですが、本庄クラブは金井ガバナー補佐がいるので、とにかく増員しようという事で10名の入会があるという話しをお聞きしました。今後、20名を目標にしているという話しを聞いております。ぜひ寄居も負けないように、今年度は5名ぐらいを目標にしておりますので、皆様方よろしくお願いいたします。各クラブ、やはり地元だけではなく、例えば、本庄の人が寄居のメンバーに声をかけて、クラブを紹介するという事も今後必要ではないかという話しもしました。皆様方、またよろしくお願いいたします。

本日、臨時理事会を開催いたしました。9月22日の地区大会の件です。地区大会ですが、当初はリモートによる開催という事でお話しをしました。実際8月8日にメールが来まして、帝国ホテルにおいて会員全員に案内を出してほしいという要請がありました。リモートでの開催は今の

ところしないという事で、帝国ホテルにお越しく下さいという案内が届きました。松本幹事から説明があると思いますが、出欠席の案内を回しますのでよろしくお願いいたします。

それと、来週は園での炉辺談話の予定となっております。テーマは「寄居クラブ 5年後のことについて」ということで、また話し合いたいと思います。皆様方から忌憚る意見を述べてもらい、楽しい炉辺談話にしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

会長の時間は以上となります。よろしくお願いいたします。

### 2. 幹事報告

松本 則之さん

皆さん、こんにちは。金さん、本日ははるばる寄居クラブへお越しいただきありがとうございます。後ほどよろしくお願いいたします。



9月22日(木)に帝国ホテルで地区大会が行なわれます。本会議が12時から17時。そのあと、帝国ホテルにおいて晩餐会が開かれます。こちらは2万円の参加費がかかります。これから出欠簿を回覧いたしますので、ご記入をお願いいたします。もう一つ、来週の炉辺談話の出欠です。こちらはバスの利用もあります。バスは17時40分に寄居駅北口を出発します。利用される方はそちらにも丸をつけてください。

もう一つございます。10月16日(日)にロータリー2570地区でSLの車両を2両貸切りまして、世界ポリオデー直前企画ということで、ポリオ根絶を世間に訴えていくというイベントが行なわれます。参加費は無料です。募集人数は約80人です。全クラブ最低1名の参加要請です。カッコとして2~3名の参加も可能ということが書いてございます。SL好きな方で家族を連れて行ってみようか

なとかたがいらっしゃいましたら、今日の例会後に私に声をかけていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上、幹事報告といたします。

### 3. 委員会報告

(1) 出席推進委員会 浅見 克一さん  
皆さん、こんにちは。本日は小宮委員長がお休みのため、私が代わりに報告をさせていただきます。

例会日	総員	欠席	出席	MU	出席率
8月24日	32	7	25	2	84.37%
8月3日の修正出席率					90.62%

(2) ニコニコボックス委員会 松本 幸男さん  
津久井大雄さん 金さん、本日はありがとうございます。卓話楽しみにしています。  
松本則之さん 皆さん、本日も元気に例会にご参加いただき誠にありがとうございます。暑さとコロナに負けず、頑張りましょう！  
松本則之さん 金さん、卓話楽しみにしています。未来のBTSメンバーより。  
佐橋正行さん 金ちゃんお久しぶりです。金ちゃんのご活躍を嬉しく思います。  
荻野幸一さん 元米山奨学生金在根さん、卓話よろしくお願います。  
吉野泰久さん あじい～ですね！いよいよコロナが身近に迫ってきました。町も毎日50～100人の発表です。毎日おびえて暮らしています。気を付けようがないので！  
浅見克一さん お顔を拝見するまではどなただったか思い出せませんが、よくおいでくださいました。  
山口正彦さん 金ちゃん、久しぶりですね。楽しみにしていました。  
鈴木光則さん キンちゃん、お久しぶり。おめでとうございます。  
柴崎 猛さん 寄居駅南口のにぎわい拠点の名称が決まりました。Yotteco (ヨッテコ) です。  
柴崎 猛さん 早退のため。  
柴崎 正さん 懐かしい金在根さん、お元気でなによりです。近況話が楽しみです。  
清水浩一さん 金ちゃん、久しぶり。元気そうで何よりです。卓話楽しみです。  
加藤祐司さん 本日欠席のため。  
大久保知明さん 金在根さん、ようこそ寄居RCへ。  
安齋治一郎さん 55周年記念誌は9月に完成いたしました。ご協力ありがとうございました。

荻野真仁さん おかげさまで、本日お茶の荻野園八木橋店がオープンしました。ありがとうございます。

大変大きくいただきました

橋本則彦さん 残暑厳しき折ですが、本日もよろしくお願います。  
下条 誠さん まだまだ暑い日が続きます。熱中症に気をつけましょう。本日もよろしくお願います。  
森田淳一さん 金在根さん、ようこそ寄居ロータリーへ。卓話楽しみにしています。  
森田淳一さん 前回欠席のため。  
小鮎哲夫さん 本日の卓話楽しみです。よろしくお願います。  
高田 徹さん キムジェグンさん、本日の卓話、早退のため聞くことができません。残念です！よろしくお願いたします。  
権田 功さん キムジェグンさんようこそ。卓話楽しみにしています。よろしくお願います。  
野村文昭さん 残暑も暑くなりそうですね。皆様どうぞお身体大切になさってください。  
松本幸男さん 金さんはじめまして。松本幸男と申します。卓話楽しみです。本日はよろしくお願いたします。

(3) 55周年事業 記念誌委員長 安齋治一郎さん  
皆さん、こんにちは。55周年記念誌が仕上がりましたので、会員名簿のところを各自チェックしてください。今日が最終確認になりますので、確認が終わりましたら印刷に回します。よろしくお願いたします。

#### 津久井大雄会長

本日は会員一同、金さんの卓話を楽しみにしておりますのでよろしくお願いたします。

金さんに年齢をお聞きしましたら47歳。とてもお若いですね！お腹も出ていないし、私もあやかりたいと思います。

金さんのプロフィールを紹介したいと思います。1975年釜山生まれ。1994年 明治短期大学に入学。1996年に徴兵。2000年来日。2009年、黒瀬会長のときに米山奨学生として寄居クラブへ。黒瀬さん、佐橋さん、鈴木さんが会長のときにわたり寄居クラブの奨学生としてご活躍しております。現在は目白大学の人間福祉学科で障がい者等の講義を行っております。本日は当時の寄居での思い出を含めて、時間はじゅうにぶんにとってありますので、卓話をよろしくお願申し上げます。

#### 「卓話」 元米山奨学生 金在根さん

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました金在根 (キムジェグン) と申します。以前、私が寄居クラ



ブにお世話になっていたときにいらしたかたが10人ほどいらっしゃるとい話しを聞いております。もう一度、私のことを覚えているというかたは手を挙げていただけますか。はい、ありがとうございます。なるべく1時20分には終わらせるようにいたします。しっかり時間を守ってお話ししたいと思います。

本当に11年ぶりに東武東上線に乗り、小川町で乗り換えて寄居町に来ましたが、懐かしいな〜と思いました。奨学生ของときには、たまにめんどくさいな〜ということもありました。遠くて遠くていつまで経ってもたどり着かないという思いもありましたが、今日は本当に懐かしいなと思いながら皆さんとお会いできる事を楽しみにしてくることができました。実は昨日の夜は仕事でした。私が最初に日本に来た時に障がい者の介助の仕事をしていたのですが、最近、その人のヘルパーさんが足りなくて、私が火曜日に泊まりに入っていて、今朝9時に終わって家に帰りシャワーを浴びて急いで電車に乗りました。そんなことがあり、皆さんと一緒に食事ができず、遅れてしまって申しわけありませんでした。

今日は、まず自己紹介。そして私が来日するまでの自分、つまり金在根ってどういう人間なのかということをお話しさせていただきまして、そのあと、来日してからの生活、近況報告をしたいと思ひます。そのあと、寄居ロータリークラブとかかわりということで、思い出などをお話しさせていただきます。そして、最後は、皆さんのサポートによって私が一人前の社会人というか、今、生きている中で一番大事にしている障がい者の支援についてのお話しをしたいと思ひます。障がい者福祉ローン、障がい者福祉の専門という事もありますので、ただ私のことだけお話しして終わりというのは、せっかくお時間をいただいていますので、ちょっとでも皆さんのためになるようなことがあればということで、障がい者支援についてお話しができればと思ひます。

先ほど会長からプロフィールを紹介していただきましたので省きます。大学のことについてお話しいたします。まず、立教大学が学部、修士、博士までということで母校になります。そのあと、立教大学で障がい学習支援室のコーディネーターを一年間やり、そして早稲田大学で教員としての仕事を始めました。早稲田大学では助教と講師をやっておりました。大学の職位体系のことがわからないかたもいらっしゃると思ひますが、昔で言うと助教授が一番下になります。教員のスタートが助教授、助教です。最近では助教授といわず、助教という言葉を使ひます。そのあとが、講師、その上が准教授、一番上が教授とだいたい4段階になっております。早稲田で最初は助教の仕事をし、2年目で講師に昇格しまして、そのあと2019年からは専任講師になりました。早稲田大学では契約でしたので、今は目白大学で定年70歳までということも

聞いておりますが、おそらく問題なければ目白大学で定年まで教員として仕事をするのかなと思ひております。ようやく、目白大学で専任になりましたので、ずっと離れ離れになっていた家族を呼んで、今は一緒に生活しています。主な科目は障がい者福祉論とソーシャルワーク実習演習などです。ソーシャルワーク実習演習は社会福祉士という資格がありまして、その資格を取るための必修科目ですが、そのような科目を担当しています。

それでは、母国での自分、金在根ってどういう人間なのかということですが、実は私の父親は私が中学2年生で亡くなっています。お酒が大好きな人でした。私もお酒は大好きで、前回、皆さんの55周年記念式典のときにお酒を交えて皆さんと話しができるということで、とても楽しみにしていたのですが、学校の行事で参加することができずとても残念でした。私のお父さんもお酒が大好きで、たぶん生活が経済的にすごく苦しいということもあり、自分ではどうにもならなくて毎晩お酒に走ってしまったのではないかと、お酒に頼るしかなかったのではないかと、今は何となく理解できるのですが、そのような父親でしたので、家計も大変でした。また、お父さんは兄弟が3人いて、うちの父が長男で二人の弟がいましたが、父のお父さんが亡くなったときに財産を一番多くもらったようで、二人の弟が毎晩うちに来て、お金をよこせとお母さんに包丁をつきつけることもあり、警察を呼んだということがしょっちゅうありました。なので、今はこういうふうに話しをすることができるようになりましたが、おそらく自分の中では韓国にいたときの幼いころの辛い生活時間というものが、今の自分の性格であったり、人生観であったり、価値観であったりということ左右するの何らかの影響があるのではないかと思ひています。

やはり経済的に苦しくて、お父さんも中2で亡くなって、お母さんが屋台で果物を売ったり魚を売ったりして、一緒にいる時間もありませんでした。私には姉が2人いたのですが、私はおそらく勉強もできず、性格も大人しくて、あまりお喋りもしないような地味な子だったと思ひています。勉強に興味がなく、やることもなく何となく入った明治短期大学でしたが、その大学で障がい者ボランティアサークルに出会いました。すぐにサークルの活動を始めたのですが、そこで自分の人生の行く道、これが自分の生きる道なのだという印象を受けました。そこは孤児の障がい児が100人くらいいる施設でしたが、なかなか外にも出られず、部屋には鎖があり、そこに閉じ込められた状態で彼らは生活をしていました。どうして彼らはこのような自由のない、決められた生活をしているのだろうかという強い問題意識を持ちました。その問題意識というものが、今、障がい者福祉を専攻としている自分を導いてくれたのではないかと思ひています。

そこでボランティアサークルを始めて、すごくはまりました。なぜ自分がそこまで障がい者ボランティアにはまったのかということ、やはり弱い自分がいて、さらに弱い



障がい者の人たちが目の前にいたときに、彼らが私を求めてくれている、私の力を頼りにしてくれているということが、そのときは二十歳でしたので気が付かなかったのですが、あとになって考えてみたら、そこで自分の存在意識とか、自分を必要としてくれていることに対してすごく嬉しい気持ちがあって、障がい者支援ということに強い興味と彼らを取り巻く社会の問題意識に強い関心を持ったのではないかと思います。そのあと、日本に来るということに決めたのは、ちょうど兵役がもうすぐ終わる時に韓国ではアジア経済危機があって、そこで兵役が終わっても職がないといわれている中で、自分にはやりたかったことがあったことを思い出して、そこで思い切って日本に行こうと決心をしました。もちろん、家では経済的に私を留学させてくれるような余裕はなかったのですが、兵役が終わって1年半くらい食堂の厨房で働いて、そのときにお金を貯めて日本に行く決めていました。食堂の社長から「日本に行っても頑張れよ」といって20万円くらい頂いて、そのお金を持って日本に留学しました。

日本に来てからは、だいぶ変わった自分になった気がします。例えば、最初日本語学校に通ったのですが、そこで日本語のスピーチ大会があり、今でも発音が苦手だったり、訛りがあったり、日本語自体には自信がないのですが、やはり自分の障がい者支援にかかわる物語をスピーチの内容にしたら、ほかにもっと上手に日本語を喋っていた中国の人より私が優勝したということがあり、これが日本での生活でいいスタートが切れたのではないかと思います。そのあとはいろいろなアルバイトをしました。先ほど話しをしたように日本に来てすぐ障がい者の介助のバイトをしたのですが、そのときには日本語がままならなかったのが、身振り手振りで障がい者の人とコミュニケーションをとりましたが、その人も苦労したと思います。明るさはあるのですが日本語が通じないということもあり、指示をもらっても、それがわからない。何度も聞き直しました。その人が丁寧に教えてくれて、日本語学校で学ぶ日本語より介助しながら障がい者の方から学んだ日本語のほうが、より多くのことを学べた気がします。あとはホテルの掃除やレストランの厨房でお皿洗いなどいろいろなアルバイトをしました。

来日して2年後に立教大学に入学しました。日本語学校では相当難しいよといわれたのですが、立教大学が社会福祉を学ぶのに良い大学だとだれかに言われたことがあり、もう立教大学一つに絞って勉強して、無事合格しました。そして、大学3年生の時に結婚しました。妻は同じ日本語学校でクラスメイトでした。日本に来たばかりで、日本語学校に通ったときに親しくなり、それで4年くらい付き合ってから結婚しました。学部の3年生で、アルバイトをしながらの生活でしたので、苦しかったのですが、支え合いながら生活をしました。そんなとき、ロータリーの奨学金制度と巡り合い、月14万円をいただけることになりました。当時、食堂のお皿洗いのバイトをしていました

が、週3~4回、長い時間働いてようやく手に入れるような金額でしたので、自分にとっては相当大きい金額の奨学金をいただくことができ、それで学業と結婚生活ができたと思います。結婚の話しをしたのは、ちょうど結婚して数年して東日本大震災がありました。たぶん皆さんもいろいろな思い出があると思いますが、私も同じです。震災のとき、私たち夫婦には子どもが一人、そして妻のお腹には二人目の子どもがいました。放射能などいろいろなニュースが出てきて、危ないから早く韓国に帰ろうと妻が言いました。ほとんどの留学生も母国に帰りました。しかし、私には日本に来てすぐに入った障がい者介助のアルバイトでとても親しくなった人がいて、私はその人を置いて母国に帰ることができませんでした。自分がヘルパーに入らないとその人が生活できない、極端に言うと生きることができません。その人を置いて国に帰ることはできないことを伝え、妻は先に帰ることになりました。妻には、いまだに3.11のときにあなたは家族を捨てたといわれて恨まれています。子どもに失語症があり、今は中学3年生になりましたが、韓国に帰ったときに言語セラピーなども受けていたので、自分の子どもに障がいがあるということは、自分の障がい者福祉を学ぶ上ではよい事だと思うのですが、奥さんは子どもの失語症のこともあり、あのときはかなり神経質になっていたのではないかと思います。恨まれても仕方ないと思っています。

ロータリーの支えがあって、今は障がい者福祉の教員をしています。教員は早稲田のころから合わせるって7年くらいになります。私の講義ですが、学生さんはあまり障がい者福祉の話しに興味がなく、退屈な顔をしている人が多いです。ですが、寄居ロータリーの皆さんが、私の話しを楽しみにしているとお聞きして、とても嬉しく思っています。教員の仕事はとても楽しいです。教員になって本当に良かったと思っています。あとは、研究も楽しくやっています。

寄居ロータリークラブにお世話になることになり最初に思ったことは、先ほど申し上げたとおり、遠いなということでした。皆は近いところに配属されるのに、なぜ私は寄居なんだと思ったことがあります。来たときにお世話になったのはカウンセラーの福島征一さんでした。背が



高くて、体格もよくて、いい顔をされていました。家に招かれて食事をごちそうになったり、洋服をいただいたりしました。福島さんが亡くなったと聞いて、とても残念に思っています。

ロータリークラブの活動の思い出は、秩父音頭祭りへの参加です。毎年、浴衣を着て踊りの大会に参加しました。一度も優勝したことはありませんでしたが、毎年楽しみでした。そして、秩父音頭祭りの目玉は、ミッションヒルズゴルフクラブに皆で泊まったことです。秩父の夜景を眺めながら、ロータリアンと奨学生皆で、朝までお酒を飲みながら楽しくワイワイすることが楽しみでした。米山奨学生としては、米山記念館に行ったことも良い思い出です。

久しぶりに寄居クラブの例会に参加して、変わらないな〜と思ったのは、最初に歌を歌うときに途中で不具合が生じることです。私が参加していたころも同じようなことが時々ありました。点鐘の鐘が鳴らなかつたり、毎回何かしらのアクシデントがあったので、改めてそのことを思い出しました。それが寄居クラブの味なのかなと思っています。

最後に障がい者支援の話をしたと思います。皆さんは、障がい者の人とかかわったことがあるかと、あまり本格的にかかわったことがないというかたがいます。健常者の生活の中に、家族とか友だちに障がい者の人がいなければ、障がいがある人とかかわる経験はないのが普通ではないかと思っています。私は日本でもいろいろな活動をしているのですが、韓国でのボランティアを含めると30年以上、障がいのある人にかかわったり、障がい者運動をしたり、また障がい者関係の仕事をしているのですが、その中で伝えたいことが2つあります。私は、障がい者福祉を伝える中で、障がい者はかわいそうだから思いやりを持って接しなさいとか、そういうことは絶対に言いません。それは違うと思っているからです。私が今まで30年以上いろいろな障がい者の人とかかわって学んだことは次の二つです。一つは、障がい者の人は自分の事を飾りません。例えば、私が今日話しをすることで緊張するとします。それはおそらく皆さんから良い評価をいただきたいという欲があって、自分をもっと良い人間に見せたくて飾りながら、見せようとする思いがあるからだと思います。だいたい人とかかわる際に、良い評価を受けたいという気持ちと、良い人間に見せたい気持ちが働くと思いますが、私がかかわっている障がい者の人はそのように自分を飾ることはありません。それは、悪く言えば飾っても変わらないから、またはそもそも評価が低いので飾ってもしょうがないというような見方もあろうかと思いますが、そうではなくて、障がい者はいわゆる社会とは外れた生きかたをしていく中で、飾ることが必要ないということに気づいた、学んだのではないかと思っています。そういう意味で、延長線では知的障がい者が人の目を気にせずに生きていくということも、

悪く言えばそれは知的障がいのせいだろうということになるかと思いますが、そうではなくて、彼らの生き方、人の目を気にせずに自分のしたいまま生きていく、その生き方を我々健常者は学ぶべきなのではないかと思っています。そのように、私も彼ら彼女らのように自分を飾らないでありのままの自分を見せたいと常に思いながら生きています。

もう一つは、障がい者の人は仲間の痛みをととても大事にしています。我々は友だちや家族が大変な状況や苦しいときには力を貸し、何とか助けてあげたいという気持ちが強いと思いますが、障がい者の人は家族や友だちではなくても、同じ障がいを持っている人には強い思いをもって相手を助けようとします。それはなぜかという、やはり障がいを持っていることがどれだけ苦しいか、辛いかということをよくわかっているから、自分が味わった苦しみ、辛い気持ちを味あわないようにするために、同じ障がい者に対して誠意をもって強い思いで助けようとしているのだと思います。そのように、苦しい、大変な人がいると、地方まで駆けつけて、彼らの生活をより良くするために力を貸したり応援したり、何か力になりたいと頑張っている姿を見ていて、どうして我々健常者はそれができないのかと思うことがあります。自分も障がい者のように周りに辛い、大変な状況に陥っている人がいたら、誠意をもってその人の力になるということを実践していきたいと思っています。

時間となりましたので、私の話しは以上となります。ありがとうございました。

#### 津久井大雄会長

金さん、貴重なお話をありがとうございました。障がい者のかたの生き方を学ぶべきというお話がありました。私もつくづくそう思います。大学の親友で足を片方なくした人がいます。彼が2年前に脳溢血になってしまいました。右半分が不随になってしまい、なおかつ動く足は片足しかない。でも、彼は大変いい生き方をされていて、私に「健常者は何をやっているんだ！」とげきを飛ばします。本当に、障がい者のかたの生き方を学び、一生懸命やっていくということは、ロータリークラブでも必要なことですし、また町づくりにも必要だと思います。ぜひみんなで頑張っていきましょう。よろしくお祈りします。

点鐘 会長 津久井 大雄さん

国際RC第2570地区第4グループ 寄居ロータリークラブ  
E-mail yorii-rc@carrot.ocn.ne.jp

2022.8.24 会 長 津久井大雄 会報・雑誌委員長 加藤 祐司  
No. 5 幹 事 松本 則之 副委員長 吉田 昌弘

- ・例会日時 毎週（水）12:30～13:30
- ・例会場 ホテルシティプラザ寄居
- ・住 所 寄居町大字桜沢888-1
- ・TEL 048（581）2468
- ・FAX 048（581）3530